



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

93.7.13 No. 3827

多岐道対千葉地区 常軌を逸する

別掲の通り、千葉地区指導センター所長・土岐は、「服装の整正について」と称する「指導文書」を、六月二十八日以降各自に配布している。(千葉地区)

その内容は、まさに常軌を逸したものであり、嘆息極まりない低次元・低レベル、恣意的基準と精神主義の強制のオンパレードに他ならない。

文書を読んでもみても明らかな通り、問題は、社員を「指導」する「機関」とされている「指導センター」主催の会議において、「白い靴下の是非」などと言うことが議論の中心となり、再度徹底させると強制を則していることだ。

「サービスの基本の基本」、「印象の善し悪し」と称し、「紺の制服に白の靴下」はバランスが悪く、「白の制服には、白のベルト・靴下」が相応しいと言っているのである。本来どこに基準を置いていくのかということもあるが、ほとんどストラックスの下に隠れてしまふ靴下の色まで覚えていて人が何人いると言うのか？意味不明も甚だしい。

(又、覚えていても気にならないという人がほとんどだろう)さらに「胸ポケットに色物のペン」と組合対策の本性を露にし、鉄道輸送の「サービスの基本」を履き違えるだけでなく、精神主義の強制を「バランス」感覚がとれていることと置き換え、常軌的「マナー」というのも言語道断なものだ。

語るに落ちる「常識的マナー」

常識とは無縁な文書を即時撤回せよ

しかしながらこうした言葉が、常識的マナーを語る資格の無い人物から出ているのであるから、これほどの笑止千万なものはない。日刊3659号でも詳報した通り、昨年九月九日千葉支

服装の整正について

日頃、社員の皆様には、「サービスの基本の基本」を認識した上でのお客様へのより良いサービスの提供について努力していただき、誠に有難うございます。

さて、去る6月14日に開催された千葉地区サービス推進会議で「白い靴下の是非」について議論されましたので、支社の方針も含めここに再度徹底させて頂きます。すでに各職場に掲出されたサービスポスターでもおわかりのとおり、制服はフォーマルウェアであり、自分の好みで選ぶカジュアルウェアと違い、一定の制約があります。特に、お客さまに対して違和感を感じさせる組み合わせは避けなければなりません。お客さまとの最初の出会いで、まず社員の態度や服装が印象の善し悪しを決めるという事をご承知のとおりです。

人が対面した時には、まず顔の表情から足元までの全体が「パット」目に強く印象づけられます。この時、態度・服装に「おやっ？」と思うような事象があった時、その時点で相手に違和感を与えることになり、スムーズな会話への妨げになってしまいます。従って、私たちはお客さまに「おやっ？」と感じさせる事象を、出来るだけ作らないように努力する必要があります。

それは、服装の点で言えば上から下までバランスがとれているという事です。例えば、紺の制服に白い靴下の場合、相手の目は白い靴下に気をとられる事になります。(胸ポケットに色物のペンなどをさしている場合も同じことが言えます)。

従って、制服の色に合った、バランスのとれた色の靴下がふさわしいのです。(白の制服には白のベルトに白の靴下がふさわしい)

社員一人一人が、それぞれ個人的な主義・主張があるかも知れませんが、世の中には常識的な「マナー」というものもあり、品位を保つ観点からも重要な事です。さらに、私たちは仕事に来ているのであって、レジャーや遊びに来ているわけではありません。仕事をしていく上でのフォーマルウェアとしての制約がある事を理解する必要があります。そして会社の方針をも理解していただくなくてはなりません。

会社も、このようなあるべき姿を期待して社員の皆様にいろいろとお願ひしています。これらのことから踏まえても、極端なガラものや白い靴下を履いているのは、バランス感覚からも、真のサービスから言ってもそぐわないこととなります。

社員の皆様には、以上のことがらを十分に理解されまして、今後とも「お客さま第一」を基本に「マナーを守っての行動」をされます事を期待いたします。

なお、水虫で困っている方は綿製のビジネスソックスが市販されておりますので合わせてここに紹介いたします。

※ 参考

- 相手に「おやっ？」という印象を与える事象は
- ① 紺の制服姿で白い靴下を履いている。
 - ② 白の制服姿で黒のくつや黒の靴下を履いている。
 - ③ 制服姿や背広姿でジョツギングシューズを履いている。
 - ④ サングラ履きでゴルフ場のフロントにいる。
 - ⑤ 胸ポケットに色物のペンなどをさしている。
 - ⑥ お葬式に白い靴下を履いていたり、派手なネクタイをやっている。
- 等、いろいろな例があげられます。

平成5年6月28日

千葉地区指導センター所長 土岐 植

社主催の「喉自慢大会」において、自ら「勤務」でカラオケに講じた土岐所長の口から、「レジャーや遊びに来ているのではない」と言われては、開いた口もふさがらない。

「人間尊重企業」を標榜しながら、臆面もなく、非人道的なこのような文書が、「処分」をチラつかせながら出されていることを断じて許してはならない。旅客サービスの解体のみでなく、業務執行体制まで解体させてしまったJRの姿勢にこそ、その責がある。

土岐所長よ、良心のカケラが残っているのであれば、柱の影から裏面監査をしてきたことを恥よ！輸送企業の基本に立ち返り、社員を指導する立場としての人格を研ぎ、エリを正して自らを律せよ！歪んだ「常識」の強制！常識とは無縁な文書を即刻撤回せよ！

衆院選推薦候補の必勝を勝ちとろう！一八日投票日

千葉一区	吉峯	啓晴
千葉二区	小川	国彦
千葉三区	清田	のり子
千葉四区	大木	正吾
千葉四区	小岩井	清
東京十区	渋谷	利久